

性格別研究費に関するヒアリング用帳票

性格別研究費の把握方法について

性格（基礎研究・応用研究・開発研究）別研究費については、これまで理学、工学、農学及び保健（これら全体を指して、自然科学という。）に関する研究に限定して回答をお願いしていましたが、科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）において、基礎研究・学術研究の振興、人文・社会科学の振興、自然科学と人文・社会科学を融合した「総合知」の創出等が挙げられており、政策的なニーズに対応するため、人文科学や社会科学も含めた研究費総額について把握することが求められています。

人文・社会科学も含めた性格別研究費の把握方法について検討を行うため、下記の質問にお答えください。

問1（本調査において自然科学に関する性格別研究費を回答された実績がある場合）

自然科学に関する性格別研究費はどのように算出されていますでしょうか。おおまかな方法で構いませんのでお聞かせください。

問2 人文・社会科学を含めた性格別研究費は把握されていますでしょうか。感触でかまいませんのでお聞かせください。

問3 人文・社会科学を含めた性格別研究費を調査する場合、以下の調査票案1～3のいずれかによって把握することを検討しておりますので、回答の可能性についてお聞かせください。
 なお、別紙のとおり、分野別に基礎研究費・応用研究費・開発研究費の事例をお示した上で調査票にご回答いただくことを考えておりますので、併せてご覧ください。

【性格別研究費】

○ 「社内（内部）で使用した研究費」について、研究の性格によって分類して記入してください。分類単位は原則として研究テーマごとに行いますが、それが困難な場合には、研究者又は研究室ごとに分類しても差し支えありません。

（案1については、自然科学に関する研究費を「うち自然科学に関する研究費」欄に記入してください。）

<案1：人文・社会科学を含めた支出金額及びうち数で自然科学分を回答>

	社内（内部）で使用した研究費	うち自然科学に関する研究費
総額	万円	万円
基礎研究費	万円	万円
応用研究費	万円	万円
開発研究費	万円	万円

<案2：人文・社会科学を含めた支出金額を回答>

（令和3年2月の研究会で提示した変更案）

	社内（内部）で使用した研究費
総額	万円
基礎研究費	万円
応用研究費	万円
開発研究費	万円

<案3：人文・社会科学を含めた支出金額を割合で回答>

（大まかな割合であれば区分可能かを確認するため追加）

	社内（内部）で使用した研究費
総額	万円
基礎研究費	%
応用研究費	%
開発研究費	%

※基礎研究費・応用研究費・開発研究費の合計は100%とする

【回答選択肢】（複数選択可）

ア 案1の回答は可能

イ 案2の回答は可能

ウ 案3の回答は可能

エ いずれも回答は困難 → 以下に理由をお聞かせください

問4 性格別研究費に関する分類の説明（基礎研究費・応用研究費・開発研究費の区別等）について、ご意見があればお聞かせください。

性格別研究費に関する分類の説明

基礎研究	<p>特別な応用、用途を直接的に考慮することなく、主として現象や観察可能な事実に関して新しい知識を得るために行われる実験的又は理論的研究をいいます。既存の学説や理論、仮説の検討（検証）、要因の分析、データ収集、何らかの事象、現象の観察は、「基礎研究」に該当します。</p> <p>基礎研究の成果は、一般的には学術論文として発表されます。</p>
応用研究	<p>特定の目標や実用上の目的に向け、新しい知識を得るために行われる独創的な研究をいいます。何らかの実際の問題の解決を目的とした独創的研究は、「応用研究」に該当します。また、基礎研究プログラムの中から将来性のある成果を探索するために新規のプロジェクトを立ち上げた段階で、「応用研究」となります。</p> <p>応用研究の成果は、発明などがあり、知的財産が保護されます。</p>
開発研究	<p>基礎研究、応用研究及び実際の経験から得た知識を活用し、新しいプロダクト（製品、サービス等）やプロセス（工程、方法等）を実現すること又はこれらを改善することに向けて付加的な知識を創出する体系的な研究を、「開発研究」といいます。</p> <p>※1 開発研究は、プロトタイプ的设计、試験など、付加的な知識を創出する作業までを含み、その後の販売のための開発や工程、量産に向けたエンジニアリングは除きます。（すなわち、「製品開発」でも「量産試作開発」でもありません。）</p> <p>※2 開発研究と応用研究の違いは、開発研究ではプロダクトやプロセスを具体的に意図しているという点にあります。</p>

分野における事例

経済学 ※FM ベース	
基礎研究	<p>経済成長の地域格差の決定要因に関する理論の検討</p> <p><u>特定の目的のために行われるものではなく、地域格差の決定要因について新たな知識を得るための理論的な作業であることから、「基礎研究」に該当すると考えられます。</u></p>
応用研究	<p>経済成長に関する地域格差是正のための特定地域の事例分析</p> <p><u>新しい知識を得るために取り組まれる独創的探究であり、かつ、「経済成長に関する地域格差是正」を目的とすることは、特定の実用上の目的又は目標に向けて行われるものであることから、「応用研究」に該当すると考えられます。</u></p>
開発研究	<p>地域の経済成長を目的とした経済政策ツールを設計するための、統計的証拠に基づいた運用モデルの開発</p> <p><u>上欄の応用研究欄にあるような研究及び実際の経験から得た知識を活用し、付加的な知識を創出する体系的作業であり、かつ、「経済政策ツールを設計するため」とすることは、経済政策ツールが政府としてのプロダクト（サービス）であると見なされ、新しいサービスの実現に向けて行われるものであることから、「開発研究」に該当すると考えられます。</u></p>

教育学 ※FM ベース	
基礎研究	<p>子どもの学習能力における環境的決定要因の分析</p> <p>子どもの学習能力に影響を及ぼす<u>何らかの要因の分析</u>は、「基礎研究」に該当すると考えられます。</p>
応用研究	<p>学習上の格差の縮小を目的とした教育プログラムの比較評価</p> <p><u>特定の実用上の目的又は目標を持った研究</u>にあたることから、「応用研究」に該当すると考えられます。</p>
開発研究	<p>特別な支援を必要とする子どもたちへの教育プログラムを選択するための、試験的プログラムの開発</p> <p><u>応用研究を踏まえた試験的なプログラムの開発</u>であることから、「開発研究」に該当すると考えられます。</p>

政治学 ※経済学の区分例の応用	
基礎研究	<p>欧州地域統合における歴史的展開に関する分析</p> <p>欧州統合という<u>過去の経緯の分析</u>が中心であることから、「基礎研究」に該当すると考えられます。</p>
応用研究	<p>地域統合の深化・発展を促進するための施策に関する研究</p> <p><u>特定の実用上の目的又は目標を持った研究</u>にあたることから、「応用研究」に該当すると考えられます。</p>
開発研究	<p>欧州地域統合の歴史的展開に関する研究成果を踏まえた、地域振興を支援するための統合モデルの開発</p> <p><u>応用研究を踏まえた統合モデルの開発は、政府としての新しいプロダクト（サービス）の実現に向けた付加的な知識の創出にあたる</u>ことから、「開発研究」に該当すると考えられます。</p>

社会学 ※経済学の区分例の応用	
基礎研究	<p>日本における子どもの環境格差（教育格差、健康格差、栄養状況など）に関するデータ収集、分析を伴う研究</p> <p><u>特定の目的のために行われるものではなく、データの収集を伴う現象の観察及び分析</u>であることから、「基礎研究」に該当すると考えられます。</p>
応用研究	<p>生活支援プログラムの提言を見据えた、諸外国における貧困状況や政策と社会の反応に関する把握及び日本における適用可能性についての検討</p> <p><u>特定の目的を持った研究</u>にあたることから、「応用研究」に該当すると考えられます。</p>
開発研究	<p>子どもの貧困問題の改善を図るための、統計的証拠に基づいた試験的な生活支援プログラムの開発</p> <p>研究から得た知識を活用し、付加的な知識を創出する体系的作業であり、<u>試験的なプログラムの開発が政府としてのプロダクト（サービス）の実現に向けた付加的な知識の創出とみなされる</u>ことから、「開発研究」に該当すると考えられます。</p>

歴史学 ※FM ベース	
基礎研究	地域における過去の自然災害に関する、文献やフィールドワークを伴う研究 特定の目的のために行われるものではなく、過去の事象についてのデータ収集であることから、「基礎研究」に該当すると考えられます。
応用研究	現代社会への示唆のため、過去の自然災害と当時の地域社会の対応についての検討 特定の実用上の目的又は目標を持った研究にあたることから、「応用研究」に該当すると考えられます。
開発研究	既存の研究成果を利用した、過去の環境変化への地域社会の対応に関する新たな展示プログラムの設計 新たな展示プログラムは、実現がめざされる新しいプロダクトにあたることから、これに向けた新たな知識の獲得を伴うこの体系的作業は、「開発研究」に該当すると考えられます。

言語学 ※FM ベース	
基礎研究	ある言語についての歴史的及び地域的又は社会的な変異に関する探求 特定の目的のために行われるものではない、社会的な差異に関する調査は、何らかの事象、現象の観察にあたることから、「基礎研究」に該当すると考えられます。
応用研究	言語能力の育成を補助するための脳の働きについての解明 特定の実用上の目的又は目標を持った研究にあたることから、「応用研究」に該当すると考えられます。
開発研究	言語能力に何らかの支障がある人に向けた新たなコミュニケーション・ツールの試験的開発 新たなコミュニケーション・ツールは、実現がめざされる新しいプロダクトにあたることから、これに向けた新たな知識の獲得を伴うこの体系的作業は、「開発研究」に該当すると考えられます。

文学 ※言語学、歴史学の区分別の応用	
基礎研究	自然言語を大規模に集積したデータベース（コーパス等）を用いた文学作品の語彙に関する研究 特定の目的のために行われるものではない、作品中に登場する語彙に関する研究は、データ収集にあたることから、「基礎研究」に該当すると考えられます。
応用研究	歴史史料等を活用した、一部が散逸した文学作品の全体像を明らかにするための研究 一部の章などが散逸したある文学作品の全体像を明らかにするための研究は、特定の目標を持った研究にあたることから、「応用研究」に該当すると考えられます。
開発研究	過去の研究成果を活用した、文学作品に関連する資料を新たに博物館や資料館で展示する企画に関する研究 博物館や資料館での展示は、実現がめざされる新しいプロダクトにあたることから、これに向けた新たな知識の獲得を伴うこの体系的作業は、「開発研究」に該当すると考えられます。

法学 ※経済学の区分例の応用	
基礎研究	<p>社会保障に関連する法律及び各種施策に関するレビュー研究</p> <p><u>既存の学説や理論、仮説の検討（検証）あるいは何らかの事象、現象の観察にあたることから、「基礎研究」に該当すると考えられます。</u></p>
応用研究	<p>貧困の縮小を目的とした、関連する法律や社会保障政策の事例分析</p> <p><u>貧困の縮小という特定の実用上の目的又は目標を持った研究にあたることから、「応用研究」に該当すると考えられます。</u></p>
開発研究	<p>貧困の縮小を目的とした社会保障制度案の法令上の構成要素についての開発</p> <p><u>貧困の縮小を目的とした社会保障制度は、実現がめざされる新しいプロダクトにあたることから、これに向けた法令上の構成要素の開発という新たな知識の獲得を伴うこの体系的作業は、「開発研究」に該当すると考えられます。</u></p>

芸術学 ※音楽学の区分例の応用	
基礎研究	<p>絵画・彫刻のモチーフ及び製作者の同定における既存の学説の再検討</p> <p><u>モチーフや製作者の同定に関する「既存の学説の再検討」は、「基礎研究」に該当すると考えられます。</u></p>
応用研究	<p>散逸・破損・剝離した美術作品の保存・復元を目的とした時代考証に関する研究</p> <p><u>美術作品の復元という特定の実用上の目的又は目標を持った研究にあたることから、「応用研究」に該当すると考えられます。</u></p>
開発研究	<p>作品の制作当時の状況を踏まえた修復方法の改善に関する研究</p> <p><u>素材や作業環境などについて制作当時の状況を踏まえた修復方法の改善は、修復というプロセスの改善に向けた付加的な知識の創出にあたることから、「開発研究」に該当すると考えられます。</u></p>